

集落見聞録

(第11回)

みやこ
都

都は平家落人の伝説地として有名で、仁淀村史には次のように書かれています。「讃岐屋島、壇ノ浦に敗れた平清盛ら平家一族は安徳天皇に供奉して、土佐の山中に入り、文治二(一一八六)年に都の行在所に到着、都の西森氏の元祖、山城金子城主中山重則は安徳帝の侍従として奉仕された。中山氏は山内と改め、山内一豊入国とともに、西森氏と改めて現在に至ったのである」



都集落

平家落人の伝説地

仁淀総合支所から車で約25分、鳥形山の西北側の中腹、標高700から800の高地に位置しています。

昭和30年代には25世帯あった集落ですが、3世帯6人(6月30日現在)にまで減少しています。

太鼓踊り

別名「都踊り」とも言われています。この踊りは安徳天皇の御霊を案じ、奉るために奉納する踊りで、数百年前より絶えることなく行われています。毎年旧暦八月二十二日(今年是新暦十月十三日)に御陵塚(安徳天皇御陵墓)で奉納されます。



古くから伝わる太鼓踊り



御陵塚

寂しくなった・・・

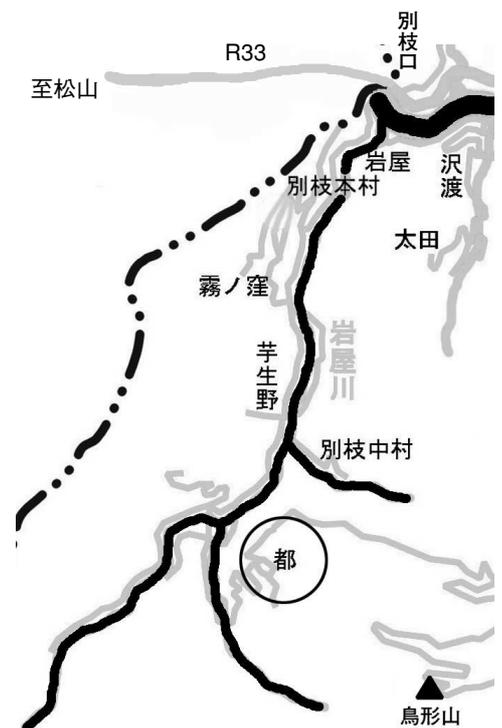
西岡登さん(86歳)は「昔はキビが主食、ミツマタで生計を立てよった。昭和30年ごろから、仕事を探して集落を出て行く人が増えて、今は家も3軒だけになった。でも、都踊りにはここから出て行った人が帰ってきて踊ってくれるし、神祭にも人が集まる。都のことを忘れずに帰ってきてくれるのがうれしい」と話していました。



西岡 登さん



白王八幡宮の神祭
七月二十三日と十一月二十三日



地域教育推進協議会が発足

学校・家庭・地域社会が連携を図り、地域ぐるみでの教育に取り組むため、仁淀川町地域教育推進協議会が設置され、六月三十日、中央公民館で初会合が開かれ、協議会設置要綱の確認や、役員選出、本年度の計画などが協議されました。

推進協議会は、町内各小・中学校と仁淀高校にある「開かれた学校づくり推進委員会」の代表者や地域で活動する団体の代表者、有識者、地域の教育機関代表者ら三十八人と事務局（教育委員会関係者）九人の委員で構成されています。（委員は町教育長か

ら委嘱または任命）推進協議会では、地域に開かれた学校づくり、学校外活動の充実、心身の健康などの教育課題、子どもを守る安全対策などに関することを協議していきます。また事業を円滑に推進するため、三つの専門部会を設置しました。

学校・家庭・地域が連携

※開かれた学校づくり推進委員会

学校、家庭、地域社会の三者が連携し、地域ぐるみの教育を進めることで、心豊かで生きる力を持った子どもたちを育成することを目指すための委員会で、「土佐の教育改革」の一環として県内各校に設置することになっています。

町内の小・中学校と仁淀高校にそれぞれ設置されていますが、名野川小学校は「名野川手をつなぐ会」、大崎小学校は「あおばずくの会」、吾川中学校は「学校づくり懇談会」、その他の学校については「開かれた学校づくり推進委員会」という名称を用いています。

役員	会長 竹村 雄幸 (池川幼稚園・小学校開かれた学校づくり推進委員会会長)
	副会長 野々宮輝雄 (仁淀地区住民代表) 藤野 孝好 (名野川手をつなぐ会会長)
専門部会	「子どもの学力を考える部会」会長 大野 耕 (仁淀中学校開かれた学校づくり推進委員会会長)
	「生活や体験活動を考える部会」会長 藤野 孝好 (名野川手をつなぐ会会長)
	「子育てを考える部会」会長 前岡三重子 (仁淀川町地域子育て支援センター長)



初会合の様子

第56回

社会を明るくする運動

法務省主唱の「社会を明るくする運動」は、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、毎年七月を強調月間として、さまざまな活動が展開されています。

七月三日には、高吾保護区保護司会員ら約五十人が、高吾三町をパレードするとともに、法務大臣のメッセージを伝達するため、役場を訪れました。

伝達式では、片岡和政高吾保護区保護司会長が「犯罪や非行が生まれるのも、また犯罪や非行をした人が戻ってくる場も地域社会です。本運動に参加していただくことが地域のきずなを取り戻す一つのきっかけとなることを期待しています」などの内容のメッセージを読み上げました。

メッセージを受け取った藤崎富士登町長からは、この運動の重要性和参加された皆さんの労をねぎらうあいさつがありました。



法務大臣メッセージの伝達



池川中学校

郷土料理に挑戦!

地域の方との交流や体験活動などを通して、それぞれの人の立場を理解しながらコミュニケーションをとる能力を育てることを目的として、三年生（十三人）が六月三十日に、総合的な学習の時間の一環として、「木と人・交流館木どり家」を運営し、「土佐の料理传承人」に認定されている女性グループ「池川遊遊会」のメンバー四人を講師に迎え、郷土料理作り

に挑戦しました。メニューは、タケノコやシイタケをのせた「田舎山菜寿司」「こんにゃくの白あえ」「イタドリのをいため物」、サツマイモの粉で作る「ほしかもち」の四品を作りました。

四つのグループに分かれて、それぞれの講師から指導を受けながら食材を切ったり、蒸し器で蒸したり、フライパンでいためたり...と調理

をしました。

一時間ほどで出来上がり、みんなで食べました。とてもおいしくて十分ほどで食べつくしました。地域の食材を使い、普段食べることの少ない素材の持つ味を生かした昔ながらの料理に、生徒たちも「家でも作ってみたいね」などと会話が弾んでいました。

今回の活動を通して池川を見詰め直し、自分たちに何ができるのかを考えるきっかけになったのではないかと思います。



指導を受けながら調理

早い通報～早い応急手当～早い救急処置～早い医療処置

6月22日、恒例の安全教室「救急法認定講習会」を体育館で行い、全校生徒・教職員が真剣に取り組みました。高吾北消防署員9人の方が、救命手当の基礎実技「心肺蘇生法の手順」を指導してくれました。全校生徒・教職員

を九班に分け、それぞれの班に指導者がつき実技の方法や注意点を細かく指導してくれ、その後一斉に、一人一人が3分間の時間制限で実技のテストを受け、全員が手順どおりの実技を行うことができました。

テスト終了後の全体指導の中で、救急隊員や医師が来るまでの救命手当での大切さをあらためて話してくれるとともに、AED（自動体外式除細動器）についての説明、食物などの異物が口など

に詰まった場合の処置、小児・乳児に行う心肺蘇生法、止血の大切さなどを話してくれました。

最後に「普通救命講習修了証」を一人一人に交付してもらい、終了しました。高吾北消防署の皆さんに感謝するとともに、学校として救命に対する心構えを持ち続けて行きたいと思えます。



真剣に取り組んだ講習会

池川自然学園

インターネットの

おかげです

今年の三月、三年生六人が卒業し、学園生は二年生が一人だけとなりました。しかし、十一人の入園希望者があり、四月からは十二人の学園生でスタートしました。

関東、東海、関西、中国地方など、ほとんどが四国外からの希望者です。インターネットの影響が大きいと思われ、ます。学園は十八年度に向け、新しくホームページを更新しました。一月のアクセスは一日平均十件ほどでしたが、六月になると三十件と増え、多い日は六十件にもなりました。

インターネットは学園にとって、また保護者や本人にとっても非常にありがたい手段です。先日、山陰から中学校の校長先生が来園されました。インターネットで学園を知り、紹介をした生徒の様子を見るためです。三時間ほどの滞在でしたが、子どもたちの明るい表情に安心されたように思います。



私たちは六月二十四日から二十六日に大洲青少年交流の家に宿泊研修に行きました。あいにくの雨でカヌーは中止になってしまいましたが、かわりに博物館に行きました。博物館には私たちの他にも大きな団体がいくつか来ていました。夜は武道館でエアロビクスを教わりました。音楽に合わせて体を動かすのは思った以上に難しかったです。

仁淀中学校

〈宿泊研修〉1年 大野 柚依

二日目には、武道館でドッチボールを班対抗や男女対抗で行いました。こわかったけど、みんな楽しそうでした。お昼からはスポーツクライミングを行いました。私は三層も登れなかったけど、八層をすいすい登っていく人が何人もいて驚きました。次に折り紙建築を行いました。かなり細かい作業でしたが面白かったです。

私たちは六月二十四日から二十六日に大洲青少年交流の家に宿泊研修に行きました。あいにくの雨でカヌーは中止になってしまいましたが、かわりに博物館に行きました。博物館には私たちの他にも大きな団体がいくつか来ていました。夜は武道館でエアロビクスを教わりました。音楽に合わせて体を動かすのは思った以上に難しかったです。

す。その日の夕食はテーブルマナーでした。座り方から食べ方まで正式に教えていただきました。とってもおいしかったです。

三日目は青少年交流の家を出てから内子散策を行いました。古くからの文化がそのまま残されていて、いろいろなことを知ることができました。この三日間で友達関係を深めることができました。知らなかったこともいろいろと学べました。とても良い宿泊研修になったと思います。



班に分かれてゲーム

徒の目線での記事内容は、教職員、保護者からも絶賛の声が上がっており、これからの発行も大いに楽しみです。担当している2人のメッセージをお伝えします。

西森未咲（3年）「学校行事に合わせて発行しますので、楽しみにしてください。写真撮影、取材依頼にはご協力をお願いします」
橋本知佳（2年）「生徒会新聞の名称トライアングルのように、これからもみんなに楽しんでもらえる新聞作りをしていきたいと思います」



好評の生徒会新聞

今年から生徒会が中心となって、広報活動として月一回の予定で生徒会新聞を発行しています。生徒・学校・家庭・地域のつながりを通して、友達と仲間同士のつながりを大切にしようという気持ちをこめて「Triangle（トライアングル）」と名づけました。A4版の裏表にカラー印刷し、写真も多く取り入れています。

仁淀高校

生徒会新聞発行

生徒会の二人が担当し、楽しく、できるだけ見やすいレイアウトを考えようと、パソコンと向き合っています。

入学式、クラブ紹介、県体育大会、生徒会役員選挙、遠足など日ごろの学校生活の様子を取材し、記録に残すというまさに新聞記者になりきった活躍をしています。今後は、地域の方々の声もお聞きしたいと考えています。学校新聞と異なり、生

子どもたちに学園を案内してもらっている自分が「テレビの主人公のようだ」と笑顔で感想をいただきました。また校長先生の地元には、自然学園のような宿泊を伴う施設がなく「校長会など機会があれば『自然学園』の紹介をしている」と、ありがたい話もお聞きしました。紹介をいただいた生徒は二学期から復学することになっています。



校長先生と一緒に